

サザンクロスの丘

桜田靖

愛しのアダムさん、イブよ。今、何処にいらっしゃるのかしら。風になってわたしのそばに降りて来てくださらないの。いいわ、一方的に語り続けてあげるわ。あなたとわたしの出会い、あなたがいつの間にか風のように入っていて、わたしの前に座っていたのですもの。それは魂消ましたわ。

わたしは、たまにしか銀座のお店に顔を出さないのに、わたし達が意気投合しちゃったのって、単なる偶然かしら。それとも神様の悪戯だったと思おうかな。あそこは姉のお店で、『南十字星』ってちょっと妙でしょう。日本の本土から見えないお星さまをネーミングした訳はご存知ですよ。

姉は赤坂の大きなサロンのナンバーワンホステスだった時に、広告代理店の社長さんと昵懇の仲になったのよ。でも、いくら本気で恋に落ちても相手に妻子がいたら仕方ないわ。

姉はわたしなんかよりずっと器量が良いから、すぐにニュージールランド人の貿易商を紹介してもらい、その人がスポンサーで銀座の店のママになれたのよ。店の名はその方の命名なこと、教えてあげましたよね。わたし達姉妹、早くに二親を亡くしてしまい、わたしは姉に育ててもらったのも同然よ。姉に甘えて大学に通わせてもらい、友達と遊びまわって単位もろくに取らないので、今も学生証が有効で、聖子は本当に勉強が好きなのね、とからかわれているわ。

あなたが『南十字星』に初めて見えた春の晩、イケメンでわたしのフィーリングに合ったから、すぐに「お名刺、下さらない。」と甘えたのよ。あなたは何の肩書きもない名前だけが太字の『阿多務光』の名刺を寄越したわ。「珍しいお名前、本名なのですか？」と訊いたら、「アダムが本名なわけないだろう。」と人懐っこい笑顔を見せましたわ。だから、わたしも咄嗟の出まかせで「わたしはイブな

の。」と澄まし顔をつくりました。わたしは偶
にしか姉の店をお手伝いしないので源氏名な
ど持たず、お客さまから名を尋ねられたら、
本名の聖子を名乗っていましたわ。お陰でわ
たしは早速『葉月イブ』の名刺を刷る羽目に
なったのよ。あの時のアダムさんの服装った
ら、奇抜だったわ。おとなしいけど根は目立
ちたがり屋さんだったのね。
あなたが、お酒がまわって体が暖まったと言
ったから上着を脱がせてあげたら、真っ赤な
セーターの胸に白く十字架を抜き、背中には
鬻どくろの模様を入れているのですもの。一体ど
んな人なのかしらと肝を潰しましたわ。

アダムさん、どちらかと言えば無口な性質た
だったけど、お酒を飲んだら陽気でお喋りに
なったわ。どうしてペンネームなのと訊いた
ら、将来は写真家になり作品を発表したい夢
があるからと恥ずかしそうに伏目になってお
っしやったわ。でも「写真家って難しいな。
大学の芸術学部で写真の勉強をしたけど、単

位が取れず中退になり、今は写真の専門学校に籍はあるけど、講釈がややこしくて面白くもないよ。」と真剣に勉強しているふしはなかったわ。わたしも英文科の学生でありながら、ろくに受講もしてないから、あなたを嘲笑う資格はないけど、イギリス人の友達がいるから英会話位は出来るのよ。わたし、「勉強より実践で、先ずは日本でも世界でも良いから、各地の景色や風物を撮りまくる旅でもしたらいかがですか？」と提案したら真顔になりお考えになったのね。姉に聞いて知っていたのだけど、アダムさんは大手不動産会社の社長の御曹司ですもの。ジャガーとベントンを交互に乗り回す日常なんてわたしには夢みたいだわ。先々お金の心配もなく、悠長な生き方が出来て羨ましい限りに思えたわ。

「イブ、夢ってどうやったら実現するんだい。お金をかければ良いのじゃないのかな？」
夏が来て学校が休みなので、わたしが連夜の

ように姉の店の手伝いに出ている頃だったわね。アダムさんったら、その時も又いきなりトイレから出て来て尋ねるのですもの。あなたが来店しているのも知らなかったのよ。本当に風になって入って来ている人だと思ったわ。わたしは、前にも言ったように「理屈は無しに、現実風景や世情の写真を撮って回ったらどうかしら。」と思いつきで答えただけよ。あなたはお酒ですっかり火照った顔でわたしを見つめながら、「イブ、いつか僕と一緒に旅に付き合ってくれないか。」と懇願したのよ。お酒に酔った人の言葉なんか、わたしはこれっぽっちも信用しないから、「まあ、嬉しいわ。」とお愛想を言って茶化したつもりだったわ。それからのアダムさんって、人が変わったみたい、お店に新刊の写真誌を持って来て菫蓄を垂れたり、購入したばかりのカメラのパーツを楽しそうに見せてくれたり、わたしはこういう商売だから笑顔でお話しを聞いてあげたけど、はっきり言ってお写真の講釈な

んで、わたしにはチンプンカンプンでしたわ。
男の方に限らず、人間って誰かに自分の思い
を語ると安心するのね。きつと人ってみんな
淋しがりやさんなのだわ。わたしだって、お
店にいたら姉やお客さんさえ鬱陶しく感じる
時もあるけど、かと言って一人ぼっちはつま
らなく淋しいわ。

もう並木通りの舗道を落ち葉が埋める頃
なっていたわ。わたしが久し振りにお店に手
伝いに出たら、すでにあなたはボックス席で
店の女の子とシヤンパンを頂いていらっしや
ったわ。

「聖子、このところ携帯にも出ないで心配し
ていたのよ。御曹司は毎晩のようにお見えに
なっているのよ。ご挨拶なさい！」と開口一
番、姉からお小言を頂戴したわ。小さい頃か
らお母さんの代わりをしてくれた姉に逆らっ
たことはありません。アダムさんがわたしに
好意以上のものを持っていたなんて本当に気
がついてなかったわ。これはアダムとイブに

なったあの晩からの宿命かしら。

女の子が気を利かせて席を立ったから、わたしは当たり前前のようにそこに座りました。

あなたは、例の十字架と髑髏のセーター姿で、初めてわたしに身を寄せて来ましたね。それまでは自分の方からは、わたしに指一本触れて来なかったのに……。

「一緒に旅に出ないかい？ 旅費はこれぼっちの心配もいらさないよ。」わたし達デートもしたことがなかったのに、いきなり旅行に行こうだなんて信じられないわ。わたし、そつと姉に相談したのよ。姉は商売柄、奔放に生きている人で、アダムさんは神様みたいに初うぶな方よ、お互いに個人旅行として行くなら何も問題ない、と言ってくれたのよ。

「そうだわ。聖子はカトリーヌの家にホームステイさせてもらったらいいわ。パパには電話しておくからね。それとも財界の御曹司と一緒になるチャンスを探みたかったら、思い切ってアタック覚悟で行ってみたらどうかし

ら。」と奨めたのでしたわ。

わたしみたいな身分の女がアダムさんの妻になつて、あなたの華麗なる家系に入るなんて許されるはずもありませんわ。アダムもイブも不幸な運命を辿ることが明白なのに、姉も無責任なことを言うものです。でも姉の生きっぷりは凄いですよ。銀座の店を持たせてくれたニュージールランドの貿易商となさぬ子をなして平気なのですからね。その子がオークランドで会ったカトリーヌちゃんよ。もう十六才、髪は黒いけど白人の血が強く出た美少女だったこと覚えているでしょう。

わたし達、十二月の中頃に成田を立ちましたね。南半球のニュージールランドは初夏で緑一面に包まれた街の景色に向けて、あなたは大型の重たそうなカメラのシャッターをしきりに切っていましたね。何だかぎこちない格好でプロのカメラマンになる道は遠そうだったわ。

わたしは姉の実の娘カトリーヌの邸宅にホームステイしたけど、あなたは遠慮してオーランド市街地のホテルに連泊したので、わたしはカトリーヌの家族に二人の関係を説明するのに苦労したのよ。カトリーヌは、将来は日本に留学する予定だから、父親から習っていて日本語がとっても上手だったでしょう。彼女のパパは仕事柄日本語がペラペラ、でもママもシスター達もブラザー達も英語しか喋らないのよ。あなたを単なる銀座の店のお客さんと紹介しても変だから、ボーイフレンドにしたけど、『ラヴ（恋）』なのか『ライク（好き）』の恋仲なのか興味津々の様子だったわ。

アダムさんとわたしが毎日飽きもせずレンタカーで、オーランド市内や港や近郊の海辺の観光ばかりしていたから、カトリーヌのパパが気を遣って、日曜日に家族旅行を計画し一緒に来るように誘ってくれたのよ。あなたが運転のレンタカーには、わたしとカトリーヌの三人、先導のワゴン車にはカトリーヌ

のパパやママ、それに替わりばんこに運転していた長兄と次兄、金髪の綺麗な姉妹とにぎやかなツアーになって楽しかったわ。一番のお奨めでワイトモ洞窟に行ったわね。土蚩つちほたるって洞窟の奥の真っ暗闇に、晴れ渡ったお空の色で、トルコ石を撒いたようにキラキラと光っていましたわ。これだけを見る日帰りの旅だったけど本当に十分に満足しました。蚩みみたいに飛ぶこともなく灯りの点滅もせず、ただ訝え訝えと光っていましたわ。アダムさんったら『撮影禁止』を口惜しがっていましたね。でもあなたの腕前では撮れっこない、とても神秘的な光だったわよ。洞窟のドーム状になった天井で光る土蚩は、まるでお星さまでしたわね。あなたが突然、お腹のそこから大声で朗々と歌い出したので、わたしは吃驚びっくりしたけど、すぐに唱和したでしよう。

♪ 聖きよしこの夜 星は光り

救いの御子みこは聖母ははの胸に

眠りたもう 夢やすし ♪

この辺りからカトリックの一家が英語で加
わりましたね。わたし達は自然と口を閉ざし、
一家の合唱に耳を傾けました。伴奏の楽器が
不要なほど、ドームには音響効果があるのね。

♪ サイレント ナイト ホーリー ナイト

オール イズ カーム

オール イズ ブライト

ラアウンド ヨン ヴァージン マザー

アンド チャイルド

ホーリー イン ファント

ソー テンダー アンド マイルド

スリープ イン ヘヴンリー ピース♪

一家が歌い終えたら、みんな賑やかな心地に
なってしまう押し黙ってしまったわ。

「もうじきクリスマスだね。僕は代々クリス
チャンの家系だよ。」

「そう、クリスマスには東京に帰るのね？」

「さてね。こっちの気候が気に入ってしまっ
たよ。日本は冬で寒いからなあ。」

アダムさんが声をかけたので我に返りましたわ。頑丈な体格をしたカトリーヌのパパの角張った顔、マリア様のように優しそうなママの白い顔、気のおけない兄弟姉妹、お人形さんのように可憐なカトリーヌの姿、この一家の幸せいっぱい影が、やっとなたしの闇に慣れた目に、おぼろげに浮かびましたわ。舟で行った洞窟の水路の上に棲む夥しい数の土蚩は、絢爛豪華に輝いていて思わず息を呑んでしまいましたわ。でもアダムさんったら、夢のないことを耳元で囁いたわ。

「本で調べたら、これは蚩じゃないんだよ。洞窟の天井に巣くったゲジゲジみたいな虫がクモみたいに糸を垂らし、引っ掛かった羽虫を食べて生きているんだ。この光は、虫を誘おびき寄せる仕掛けなんだよ。一年経ったら羽化し、雄と雌は交尾し産卵して死ぬだけだったさ。食欲と性欲だけの虫けらの命さ。」

「見たことはないけど、あり地獄が羽化してかげろう蚩になるのと同じね。」

「そうだってさ。もう成虫には、ものを食べたり水を吸ったりする口もないんだよ。」

わたしは、暗い洞窟から眩しいほど明るいつる春の真昼の陽光の下に出ると、目の当たりにしたばかりの幻想的光景への陶醉と、生物科学的な残酷な事実のギャップにちよつと氣をとられたせいか、地べたの石ころにつまずいてよろめきましたわ。

「おや、眩暈かい？」とアダムさんに抱きとめられた時は嬉しくて、そのまま継りついていましたのよ。

その後、カトリーヌのパパの知り合いの酪農家に行き、昼食をご馳走になりましたわね。アダムさんったら、牧場に出て「子羊が可愛らしい。」と何十枚も写真を撮ったのに、その足で子羊の丸焼きを「おいしい、おいしい。」と鱧腹食べるのですもの、何だか滑稽でしたわ。

「ロトレアまで、三時間だよ。二人で行って

来たらどうですか？」

「折角ここまで来たのだから、ついでにいかがですか。日没は午後九時だから大丈夫よ。わたし達は、何度も行っただし、明日の仕度もあるからここから帰りますけどね。」

カトリリーヌのパパに日本語で、ママには英語で勧められましたね。

ロトレア市は、温泉の湯煙に抱かれた保養地でマオリ族のシヨウも見られるそうですけど、アダムさんは「今日はもう帰りたいです。」と返事し、結局は朝来た時と同じ車列で帰路につきましましたね。高速道路のないこの国ですもの、ここからでもオークランドまで約二百キロ続く一般道、三時間のドライブを思えば帰りたくなりますわ。

日本だったらとっくに日暮れなのに、こちらの六時って真昼間、何だか調子が狂い出しましたわね。カトリリーヌの家に到着し、アダムさんもわたしも車を降りたけど、どっと疲れを感じましたものね。あなた、帰り道はひ

たすら運転に没頭し、わたしとカトリーヌが
ずっとお喋りしていたのを聞いている風もな
かったわ。やっぱり何かを考えていらっしや
ったのね。みんなで夕食をご一緒しましょう
って誘ったのに、一眠りしたいと車に乗り込
み、さっさとホテルに引き揚げてしまうので
すもの。みんなあっけにとられた顔をしてい
ましたわ。

その日の夜の十時くらいだったかしら、あ
なたから電話で、「四、五日の予定で南島を一
人旅をして来るから待っていてくれ。日本に
は一緒に帰ろう。」と言ったわね。風来坊って
言葉の通り、あなたは風のような人だわ。そ
れでも実家のお母様には毎日のようにメール
を送信していたのね。わたしは、アダムさん
が携帯電話なんかで縛られない、風のように
好きに漂っている人だとばかり思っていた
から、それを後で知って驚いたわ。でもカト
リーヌのパパに「アダムさんが南島を一人旅
するそうですわ。」と電話のことを報告した時

に、そつと教えてもらつたことには、もうそれこそ今にも心臓が爆発して壊れるかと思うくらい吃驚したのよ。その晩はまるつきり眠れなかつたわ。アダムさんつたら、本当はわたしの姉に恋焦がれていたのね。あなたよりずつと年上の姉が憧れの人だつたのね。

わたしは知らなかつたけど、ワイトモの洞窟を出たわたしたちが抱き合うような格好をしていたのを見たパパが「君たちはいずれ結婚するのかわ？」とあなたに尋ねたそうね。

「実は聖子のお姉さんの方が好きなのです。日本に帰つたら思い切つて愛を告白します。」とパパに答えたそうね。わたし、アダムさんは何と淺はかなのかと最初は呆れ、すぐに何と純粹過ぎるのか、と情けなくなつたわ。ワイトモの土蚩の神秘的な光は現象で、真相は食欲と性欲の本能剥き出しのグロテスクな虫の一生だと、自分の方からわたしに教えてくれたことを忘れたのかしら。わたしの姉の美しさこそ、風俗の世界を男から男へ渡り歩き、

弄やぶんで磨かれた現象なのよ。実相の一つを言
えば、この家のパパとも出来ていて、カトリ
ー又はその一粒種なのよ。アダムさんは、そ
んなことも知らないで、姉への愛を姉の愛人
の一人に告白するなんて漫画より滑稽で、滑
稽を跳び越えて可哀想に思うわ。

窓外の庭の緑が滴る何ごともないような静
かな朝の食事時でしたわ。カトリーヌのパパ
は、あなたがいつオーストラランドに戻って来る
のか心配したのよ。
「たぶんクリスマスイヴまでには戻って来る
わ。」

わたしは努めて呑気そうに、心配顔のパパに
言ったの。その途端、日本にいるあなたのお
母様から電話があったのよ。ここを連絡先に
教えていたわけね。毎日のように来ていた息
子のメールが途絶えたから、お母様の方から
携帯電話を架けたけど着信不能の番号ばかり
の日が続き、やむにやまれず電話してきたみ

たい。わたしは正直に、息子さんから南島に行くと言われただけ、音信はありません、と答えました。だって本当に風のように去ってしまったあなたのこと、それだけしか知らないで当たり前ですもの。お母様もメールであなたが南島にいることはご存知だったわ。でも「どうして一人で行かせたの？」の詰問はひどいわ。わたし、アダムさんの保護者でもなければ、恋人でもなかったはずよ。翌日、日本からあたふたとご両親と会社の総務の人がこちらを訪ねて見えたわ。私達には大騒ぎになるから何も動かないでくれと要請し、この日本領事館やウエリントンの日本大使館などに相談されたみたいね。日本の大企業の御曹司の失踪だなんて、極秘裏にしか検索できないうことですわ。

まるまる三日間かけて、やっとアダムさんの足跡をおぼろげに掴めたそうよ。後でああなたのお母様から教えてもらったのですけど、オークランド空港から南島のクライストチャー

イチ市に飛んだのね。そこでレンタカーを借りた記録も残っていたわ。街の雑貨屋さんでハイキング用品一式を購入したことも分かりました。あなたが胸に白抜きの十字の真っ赤なセーター姿だったから、店員さんが記憶していたのよ。ハーミテージのホテルの敷地内に無断駐車していたことも、ガードマンにチェックされていたそうよ。

その後の正確な足取りは推測するしかなかったようよ。きっとあなたは車の中で寝泊りしていたのね。あなたのレンタカーは、かつて金鉱で栄えたのが嘘のように、今は廃墟になっちゃった。クロムウェルという町の外れの森のそばで見つかったそうだわ。車の中に残っていたのはデジタルカメラの一台だけ、そこに残された僅か数枚の映像をお母様に見せてもらったわ。残雪のサザンアルプスの主峰マウント・クック、まるでスイスのアルプスと同じような連峰、それにマヌカの白い花の咲いた森の小道、この山麓をハイキングし

たのでしょようね。人懐っこいケアというオウムの仲間の鳥の大写し、それに紫やピンクのルピナスの花咲く草原や河原。カトリリーの話では、ルピナスはニュージーランドの大地にはびこり過ぎて、川の流れを堰き止めてしまいう害草となつてしまい、これからは間引きされるようになるとか、生き物の消長つて神様の思し召しだけじゃないみたいなのね。

あなたが遺した写真で一番目を惹いたのが遠く湖面の彼方にサザンアルプスの峰々が写つた一枚、まるでレオナルド藤田の絵のような乳白色に輝く湖、これは晴天のテカポ湖の色だそうよ。あなたはカンタベリー大平原を疾走し、ドライブを楽しんだのね。きっと助手席に、わたしの姉の艶やかな幻影が座つていたのだわ。

あなたが愛用の大型カメラや全所持品を収納したリュックサックが見つかつていたら、もっと色んなことが判明したでしょうに残念ですわ。あなたのお父様もお母様も生死不詳

の行方不明事案にして捜索を打ち切られたのですよ。わたしがカトリーヌのパパから聞いたことだけど、ニュージールランドに猛獣や毒蛇はいないからハイキングはコースを外れない限り安全、でも何か面白いものや綺麗なもの無理して撮影しようとして溪流や沢に落ちていたら絶望だそうよ。

わたしは、あなたのお父様やお母様達と同じ航空便で日本に帰ったけど、一緒に来たアダムさんがいなくて、成田に着くまであなたを思い出しては泣いていましたわ。帰国する前の晩も悲しくて泣いてばかりでしたわ。折角の晩餐なのに、ろくに食事を喉に通さないわたしを心配したカトリーヌの一家が、「聖子、一緒にお祈りしましょう。人にはただ、ひたすら祈ることしかできません。」と郊外の丘の上に連れて行ってくれたわ。

カトリーヌが黙って天空に横並びの明るいアルファ星とベータ星を指差したの。パパが

「その左側をよく見てごらん。」と教えてくれたわ。涙で滲んだ目を凝らしたら十字の星座がありましたわ。サザンクロス、姉のお店の名前の南十字星です。わたしは、日本に帰ってきてちゃんと大学を卒業したら、ニュージーランドに移民して働きます。この一家が働き口を保証してやると約束してくれたわ。洗礼を受けてクリスチャンになり、あなたが眠るこの大地に生きて、最後はこの土になりますわ。そのようにサザンクロスにお祈りを捧げましたわ。アダムさん、その時こそわたし達はアダムとイブよ。これがたった一度だけの本当の愛、サザンクロスが知っていることよ。当地はもうすぐ夏なのに、やけに冷たい夜風が丘の上に吹いていましたわ。

終

※ 作品中に引用した『聖夜』は、由木康の作詞を補作したものです。